

MELDIA

FREE

VOL.66

MAR.2025

寄贈レポート
より豊かな社会生活に向けて
手織り機&綿糸セットを寄贈

大会新記録続々更新！
参加選手300名超が白熱する新春大会に密着

第8回 日本知的障害者
選手権 新春水泳
競技大会 (WPS公認大会)



母として、政治家として、
未来への想い

衆議院議員 野田聖子

人気ブロガー・桜井奈々さんが語る
上手くいかないときも、
笑い飛ばせば
人生はもっと楽しくなる



政治家、そして母としての両面を持つ
野田聖子議員。仕事と育児を両立しながら、
障害のある息子と向き合う日々の中で
感じた福祉の課題や政治への想いを語ります。
彼女の経験が生む政策の変化や
未来への展望に迫ります。

衆議院議員

野田聖子議員

INTERVIEW

母として、政治家として、未来への想い



仕事と家庭の両立については、野田議員の夫の協力が大きな支えとなっていると言います。「うちは逆転夫婦ですね。夫が主夫をしてくれているので、私が仕事に専念できる。そのおかげで、議員と

「私の母親度は世の中でいう10点満点で4点くらいですね。そう率直に語る野田聖子議員。彼女は仕事と育児を両立しながら、政治の最前線で活動を続けています。息子が生まれる前から衆議院議員として活躍し、当初は女性議員が極端に少ない環境に身を置いていました。「私が議員になった頃、自民党の衆議院議員で女性は私と田中真紀子さんの2人だけ。田中真紀子さんはとてもパワフルで性別を超えたような方なので、実質的に女性議員は私だけと言えるくらいでした」と振り返ります。

政治の世界は多忙を極め、特に若い頃は日々の活動や会合で24時間を費やす日々だったといいます。しかし、議員としての経験を重ねベテラン議員となったことで、ある程度時間を管理できるようになり、息子さんの時間を大切にできるようになりました。「今は自分でスケジュールを決められるので、仕事と息子の時間のバランスを取れるようになりました」。

障害のある息子を持つ一人の母として家族の支えを借りてこなす仕事と育児

CONTENTS

VOL. 66

MELDIA
2025 MAR.

03 衆議院議員 野田聖子議員INTERVIEW
母として、政治家として、未来への想い

06 寄贈レポート より豊かな社会生活に向けて
手織り機&綿糸セットを寄贈

09 大会新記録続々更新!
参加選手300名超が白熱する新春大会に密着
第8回 日本知的障害者選手権
新春水泳競技大会(WPS公認大会)

12 信頼できる仲間と、安心して楽しく長く
働ける環境を目指して

14 人気ブロガー・桜井奈々さんが語る
上手いかないときも、
笑い飛ばせば人生はもっと楽しくなる

16 即興演奏を通じて「ありのまま」を
表現できる場を広げたい

18 子どもの発達段階に応じて選べる「おもちゃ」のサイト
～おもちゃが育む人とのコミュニケーション～

20 ADHDかな?と思ったら、
ためらわずに専門機関へアクセスを。

22 おさんぽ DE 楽しむ!
富士急ハイランドと御殿場プレミアム・アウトレットでとびきりの一日を過ごそう!

24 シンママまると息子の成長記録 VOL.3

26 美幸先生とたのしむ ミラクル絵本ツアー VOL.12

28 春の訪れとともに感じるセンチメンタルとドラマチックの間の感情
水越けいこ M Size はじまり Again

30 プロバスケットボールチーム
東京八王子ビートレインズの選手からメッセージ!

31 湘南ベルマーレホームゲーム観戦チケットプレゼント



©2025 Gullane (Thomas) Limited.



しての責務を果たしながらも母として
息子の成長を見守ることができるとい
す」。

息子の障害をサポートしつつ 彼の選択を尊重

野田議員の息子さんには身体障害や
知的障害もあり、日常生活の中で困難に
直面することもあります。それ以上に
楽しい瞬間も多いと語ります。息子さん
は特にお笑いが大好きで、芸人・中川パ
ラダイスさんの大ファン。「今年の目標
は中川パラダイスさんに対面するこ
と！」と息子さんは意気込んでいます。

です。

また、ゲームや音楽にも興味があり、
一度興味を持ったことにはとことん夢
中になる性格だといいます。日常生活で
は、自立をサポートしながらも、なるべ
く息子さんの意志を尊重するよう心掛
けているといいます。「親として手助け
したい気持ちはあるけれど、彼が求めて
いるものと私が『彼のため』と思って用
意するものが違うこともあります。そう
いう時は、彼の選択を大事にするよう
にしています。例えば、テレビゲームの
コントローラーというと、息子は片手に
痺があるので片手で使えるコントロー

ラーを見つけて、「よし、これだ！」と
思って買ったら使わないんです。片手を
駆使して通常のコントローラーで、始め
はすぐにゲームオーバーになりながら
も楽しそうに何回もやって上達してい
くんです」。

障害児を育てる当事者としての 経験が政治に与えた変化

息子さんを育てる中で、野田議員は日
本の福祉制度に多くの課題を感じてい
ます。「息子には私がいなくなったとき
に社会的にマイノリティーな立場でも
生き残る術を身に付けてもらうために、
他者と関わることを今から大切にしてい
自分に強さを持つてほしいと思っています。
ただ、やはり障害児をもつ親の共



応接室に飾られている自画像と愛犬の絵は野田議員作。

「18歳までは教育や福祉の支援がありま
すが、18歳を過ぎると急に福祉の枠組み
から外れ、支援が途切れてしまう。これ
は『18歳の壁』と呼ばれる大きな課題です。
結果として、親がずっと子どもの面倒を
見続けなければならず、仕事を続けるこ
とが難しくなる家庭も多いんです」。

また、障害児の育児を通して、野田議
員自身の政治家としての意識も大きく
変わったといいます。「息子が生まれる
までは、社会的に弱い立場の人を支援す
る政治をしようと思っていたけれど、当
事者として経験することで初めて本当
に理解できたことが多いです。彼のおか
げで政治家として、より実感のこもった
政策を提案できるようになりました。例
えば、私たちが普通に使っている道路で
も、車いすや歩行が困難な子にとっては
小さな段差など、まだまだ不便を感じる
部分があるわけです。そういった障害の
ある人に何が必要かということ、息子
という鬼コーチのような存在が常に気



力強くも包み込むような「愛」が
感じられる一筆。

づかせてくれるんです」。

さらに、社会の意識も変えていく必要
があると指摘します。「障害者福祉は、健
常者にとって『遠い世界』の話に感じら
れることが多いですが、本当は誰にとっ
ても関係のあること。支援の充実だけ
なく、社会全体の理解を深めることが重
要です。そうして、障害者のことを正し
く理解して、彼らが金食い虫じゃないっ
て分かってほしいんです」。

「福祉はもって サービス業にならなく」

野田議員は、福祉制度のあり方につい
て「福祉はもってサービス業にならな
い」と語ります。「福祉を単なる支援で
なく、質の高いサービスとして提供でき
る仕組みが必要です。例えば、ホテル業
のように利用者にとって快適な環境を

整えることを重視し、利益を出しながら
持続可能な運営ができるようにするべ
きです。私は以前、帝国ホテルに勤めて
おり、お客様におもてなしを提供してい
ました。その経験から、グループホーム
や施設など、障害のある方がいる場も
もてなしの場に変えることで、新たな可
能性を広げられるのではないかと考え
ています」。

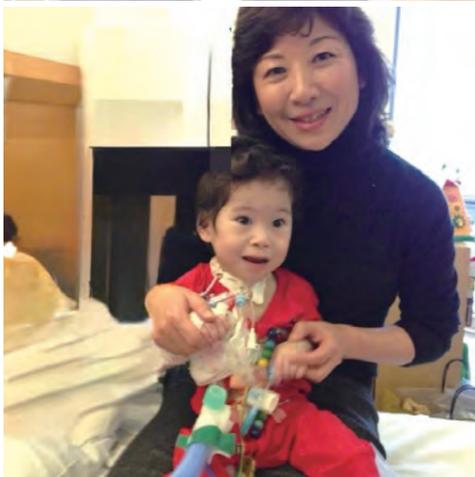
また、現在の福祉施設の運営には多く
の制約があることも課題だと指摘しま
す。「行政の規制が厳しく、施設ごとの特
色を活かした柔軟な運営が難しい。これ
では利用者にとって最適な環境を提供
するのが難しくなります」。

今後の展望については、「より柔軟な
支援体制の構築が必要です。例えば、障
害者と高齢者が同じ施設を利用できる
ような、地域に根ざした包括的な支援モ

デルを作っていくた
い」と語ります。

最後に、読者への
メッセージとして、「福
祉は決して他人事では
ありません。誰もが老
いるし、障害を持つ可
能性もある。だからこ
そ、今から社会全体で
考え、より良い未来を
作るために関心を持っ
てほしい」と呼びかけ
ました。

野田議員の経験と視
点から語られる福祉の
課題と展望は、今後の
社会のあり方を考える
うえで多くの示唆を与
えてくれます。



野田聖子
衆議院議員(岐阜1区選出)。1987年に岐阜県議会議員
となり、1993年に衆議院議員初当選。総務大臣や自由
民主党幹事長代行などを歴任。障がいを持つ息子の母
として福祉政策にも注力している。



くるるえびすの活動の柱は、大きく3つあります。1つ目は創作活動で、利用者の個性を活かした絵画や刺繍、紙工芸などを制作しています。2つ目は園芸活動で、施設内で水耕栽培を行い、育てたハーブや野菜を地域のマルシェで販売したり、利用者が味

社会福祉法人友愛学園(以下、友愛学園)が運営するくるるえびすについて、友愛学園理事長の河津英彦さんと、くるるえびす副施設長兼管理者の安藤健さんにお話を伺いました。

障がい者の創作と可能性を広げる、笑顔溢れる施設を目指して

くるるえびすは、故辻章氏の「障がいのある人の創作活動を支援したい」という遺志が反映されており、創作活動の中

心とした支援が特徴です。友愛学園のこれまでの実績が評価され、渋谷区からの委託を受け、障がいのある方の新しい居場所として多くの人の想いが集まり、この施設が出来上がりました。現在、くるるえびすでは20名の利用者が通所し、男性15名、女性5名の構成となっています。施設の名称はフランス語の「クルール(色彩)」に由来し、「さまざまな人が来る、集まる」という意味も込められています。河津さんは「多様な人がいることを肯定的に受け入れて、さらにはくるるえびすに来る人は皆えびす顔になれるような施設にしよう」と話しています。「と語ります。



Donation Report for COULEUR EBISU MELDIA 寄贈レポート

より豊かな社会生活に向けて 手織り機&綿糸セットを寄贈

一般財団法人メルディア 代表理事 小池 信三



一般財団法人メルディア 代表理事 小池信三(右)
社会福祉法人友愛学園 理事長 河津英彦さん(左)

わう機会も提供しています。3つ目は運動活動で、ダンスやウォーキングを取り入れ、利用者の健康維持にも力を入れています。

くるるえびすが大切にしている思い、創作活動の魅力

安藤さんによると、くるるえびすの最大の特長は「利用者の表現を大切にすること」です。「利用者一人ひとりのペースをできるだけ尊重しています。それによ

また、創作活動が持つ「人とのつながり」も大きな魅力です。作品を展示することで、地域の人々との交流が生まれ、利用者自身も「自分の作品を見てもらえた」と実感することができます。「今はまだ実現していませんが、屋外の掲示板をギャラリーとして活用する提案を区に對して働きかけています。地域の方から『ここは障がい者施設だったのね』と言われることがあるので、内部だけでなく、外部の方の目に触れる場に存在をア

りとても和やかな雰囲気があると感じます」と安藤さんは語ります。絵や刺繍、紙工芸などの創作活動では、職員が適度にサポートしながらも、できるだけ利用者の自由な発想を尊重します。「一本の線でも、その人の気持や個性が現れます。作品を見ると、その日の体調や気分までも感じ取れることがあります。創作活動には、「生き方の記録」という側面も持っているのではないかと感じています」と安藤さんは言います。

寄贈レポート
一般財団法人メルディア 代表理事 小池 信三
支援施設のイメージを覆す立地
都会の中心でアート活動に
精を出すくるるえびす

障がいのある方の支援施設というと、都会からは少しはずれた地域にあると思う方も多くいらっしゃると思います。代官山駅から歩いていくことのできる、渋谷区くるるえびす(以下、くるるえびす)さんはそんなイメージを覆す素敵な施設でした。館内はあたたかな雰囲気と光が差し込む長い廊下が続く開放的な空間が広がっていました。アートに力を入れて活動されていて、廊下の壁二面や天井に独創的で鮮やかなアート作品が所狭しと飾られていました。利用者のみならず、作品をもっと多くの人に見てもらえるよう屋外展示も検討中とのこと楽しみます。

そんなアート活動の広がりの一助となるよう、今回は手織り機と綿糸を寄贈させていただきました。今後活用いただき、新たにユニークな作品が生まれることを祈っています。くるるえびすさんのお話を通じ、多様性を受容し、誰もが笑顔で暮らせる社会の実現はそう遠くない未来にあると感じることの出来る素敵な時間でした。一般財団法人メルディアではみなさまの豊かな生活に寄与できるよう、これからも多くの団体や支援者の方と連携し、協力していきます。



大会新記録続々更新！
参加選手300名超が白熱する
新春大会に密着

第8回 日本知的障害者選手権 新春水泳競技大会

2025/1/13(月・祝)
(WPS公認大会)

～一般社団法人日本知的障害者水泳連盟(以下、日本知的障害者水泳連盟)が開催する国内大会～
千葉県国際総合水泳場では多数の選手が自身の新たな可能性に向けて励んでいました。



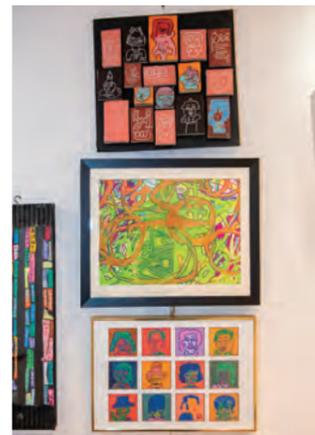
水泳は、水の中にいるときの解放感や、全身を使う運動のバランスの良さが、知的障がいのある人々にとって非常に適したスポーツだと言われています。大会でも長年競技を継続している選手の多さが目立ちました。

現在、連盟は年に3回の主催大会を運営するほか、小学校での水泳授業の支援や初心者向けの水泳教室の開催、さらには地域での講習会を通じた普及活動にも力を入れています。

今回取材した、連盟の理事兼運営委員長の谷口さんによれば、連盟の設立は、前副会長の及川栄子さん達が「知的障がいのある子どもたちも成長できる場を提供したい」と強く願ったことがきっかけだそうです。「歩みはゆっくりでも、学べば成長する。その可能性を信じて支援を続けてきた結果が、現在の活動に繋がっています」と語ります。

パラリンピックでも拡大しつつある
スポーツ、水泳のさらなる振興に向けて

日本知的障害者水泳連盟は、知的障がいのある人々が社会の中で活躍する場を作ることを目的に、約30年前の1999年に設立されました。当時はまだ「精神薄弱」と呼ばれることもあり、社会的な認知が低かった知的障がい者が、自らの可能性を発揮できる環境を整えることが課題でした。



メルディア読者へのメッセージとして、「ゆつくりではあるけれど、社会は確実に良い方向に進んでいる」といいます。「障がいに対する理解が進み、選択肢

も増やしていく予定です。また、福祉の未来について、「障がいのある方の選択肢を広げることが必要」と河津さんは語ります。「障がいのある方は、学びの場や住む場所、仕事、恋愛、結婚など、選択肢が限られがちです。その選択肢を広げることが、私たちの使命です」。

ゆつくりではあるけれど、
社会は確実に良い方向に進んでいる

計3名様 PRESENT

A くるるえびす
コルクキーホルダー
ポーチ いずれか1つ
※種類は選べません

詳しくは裏表紙



渋谷区くるるえびす

令和3年4月に開設。代官山駅、恵比寿駅、渋谷駅も徒歩圏内の恵比寿西二丁目複合施設内にある生活介護事業所。施設の名称のくるるは、フランス語で「色彩」「彩り」(クールール couleur)を意味する。
<https://www.yuaigakuen.or.jp/office/kururu-ebisu/>



も増えてきています。皆さんと一緒に、よりよい未来を作っていきたいと思えます。まずは、今回寄贈頂いた手織り機を使って、創作活動の広がり活かししていきたいと思えます。どんな作品が生まれるのか今から楽しみます。くるるえびすの活動が、障がいのある人々の可能性を広げ、社会とのつながりを生み出す大切な場となるよう、今後の発展にも期待が寄せられます。



「知的障がいのある人は、言葉に頼らず体全体で表現することが得意です。彼らの作品には、理屈を超えた本質的な魅力があります」と河津さんは語ります。また、河津さんは「現在80歳になります。ピールしていきたいと思っています」と、意気込みます。

「長いキャリアの中で、今知的障がいの世界に関われることは、自分にとって幸運だと感じます。周りの方の若さに刺激されることも多いですし、障がいのある人々と触れ合うことで、本来の人間を生きるということを考え直させてくれるのです」と話します。「企業の世界では言葉が中心ですが、ここではむしろ言葉を超えたコミュニケーションが大切。本来の人間同士の関わりを実感できる場だと思っています。そして、職員も含め若い人たちと共に活動することで、感覚が鈍らずに済みますし、新しい価値観にも触れられます。私にとっても、ここは大切な学びの場です」と生き生きと語ります。



一般社団法人日本知的障害者水泳連盟会長 佐野 和夫さん



アジア新記録を樹立する選手も！ 伸びしろが豊富な選手たちのサポートに向けて

体的成長や、喘息を持つ子が健康のために始めることが多いようです。連盟が主催する競技会が発表の場、つまり自己表現の場となり、成功体験を積むことで自信を深めていくことも大きなメリットと語ります。



一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 理事兼運営委員長、山梨学院大学スポーツ科学教授 谷口裕美子さん(右)一般財団法人メルディア 事務局長 永野周平(左)

の若手選手たちは現在、高校生から社会人1〜2年目の世代だそう。「この年代の選手たちが、次のパラリンピックや国際大会での飛躍を目指しています。特に若い選手の成長に期待したいです」と谷口さん。

一般社団法人 日本知的障害者水泳連盟
1999年設立。日本知的障害者水泳選手権大会25m/50mなど国内大会の開催や、Virtus世界水泳選手権大会やパラリンピックなどの国際大会へ代表選手を派遣している。知的障害者水泳の普及・振興に向け活動を広げている。<https://jsfpd.com/>



「親御さんから『水に潜っているときの子どもが一番良い顔をしている』という声をよく聞きます」と、谷口さんは笑顔で語ります。水泳は、全身運動による身

一方で、競技人口の少なさ、特に女性選手の育成が急務だといいます。現在、強化指定選手が29名、育成指定選手が16名ですが、男女比でみると女性は非常に少ない状況です。女性選手の発掘と育成を進める必要があります。また、実施される競技種目や、障がい特有の身体能力の差に応じた基準作りなど、運営面でも課題は多いようです。

また、大会運営においては、選手たちのスケジュールを鑑みながら、可能な限り多くの種目に挑戦できる機会を設けるなど運営面での苦労もありますが、選手たちが最大限に力を発揮できる環境作りが最優先されていることが伝わります。

今大会の見どころ、若い年代の選手の台頭
今回の水泳競技大会は国内最高峰の「日本選手権」とは異なり、新たなチャレンジができる大会として位置づけられています。参加標準記録を1種目クリアしていれば、クリアしていない種目にも出場ができます。そのことで、新たな種目や短水路から長水路への移行を目指す選手たちが挑戦しやすいように工夫がされています。注目の選手たちは現在、高校生から社会人1〜2年目の世代だそう。「この年代の選手たちが、次のパラリンピックや国際大会での飛躍を目指しています。特に若い選手の成長に期待したいです」と谷口さん。

競技会という発表の場が自己表現の成長にもつながる

多項目参加で新たな自分に挑戦。 さらなる記録に向け奮闘する選手たちにインタビュー



佐藤駿弥選手 (20歳・福島県)
出場競技:200m個人メドレー、100m自由形、200m平泳ぎ

小学校1年生の頃から喘息改善をきっかけに水泳を始めた佐藤選手は、小学校高学年頃から競技に夢中になったそうです。年末年始の強化合宿や週6日の練習を経て、今大会では個人メドレーで3位に入賞しました。今後も蹴りに持ち味のある得意の平泳ぎを活かし、「社会人選手権で入賞を目指し、全国で戦える選手になりたい」と語ります。ご家族からは「社会人になってからも続けたいと本人も言っているのだから、これからも頑張ってほしい」と温かい言葉が寄せられています。



渡辺琢斗選手 (20歳・福井県)
出場競技:1500m自由形

小学校1年生からスポーツをやりたいと水泳を始め、知的障がいのクラスに移ってから自分を出せるようになったそうです。地元クラブでの練習や陸上トレーニングなどを重ね、今大会でもベストを尽くしました。「自分が納得いく成績を残せるように頑張りたい。今後は世界大会に出場し、トップ選手を目指したい」と夢を語ります。お母様からは「日本や世界で活躍できるように、辛い時も諦めず頑張ってほしい。できるサポートをしていきたい」とエールが送られています。



森下綾子選手 (27歳・東京都)
出場競技:800m自由形、50m、200mバタフライ

水泳は健康のために7歳から始め、現在も区民プールで毎日練習を欠かさず行っているという森下選手。特に後半の粘り強さが持ち味で、今回の大会に向けては長距離を泳ぐ練習に力を入れたといいます。800m自由形でベストタイムを記録し、Virtus Global Games(パータス)の世界新記録まであと3秒に迫りました。「次は絶対に記録を縮めたい」と目標を掲げています。お母様は「努力あるのみ。これからも頑張ってほしい」と語っています。



牧山和樹選手 (16歳・東京都)
出場競技:50m背泳ぎ、100mバタフライ、100m背泳ぎ

小学校2年生から支援学校の先生の勧めで水泳を始め、競技に参加する中で得意のバタフライに磨きをかけてきた牧山選手。特に手のかきに強みがあるそうです。元日も大会に向けて準備をした結果、見事銀メダルを獲得しました。しかし、大会新記録を出せなかったことは悔しいと語ります。「次の目標は3年後のロサンゼルス大会。記録を更新して世界で活躍したい」と意気込む牧山選手。ご家族も「真摯に向き合いながら練習にこれからも励んでほしい」と全面的に支えています。

水泳を通じて自分の得意分野を見つけてほしい

信頼できる仲間と、安心して楽しく長く働ける環境を目指して

セイコーエプソン株式会社の特例子会社・エプソンミズベ株式会社は、現在、162名の障がい者が在籍し、知的障がい者が過半数を占める職場環境の中で、4つの事業を柱に業務を展開しています。代表取締役上條さんを始め、管理部の河西さん、早川さん、そして障がいのある従業員3名に話を伺いました。



代表取締役 上條 尚史さん

1989年にセイコーエプソンの関係会社に入社。2005年より労働組合へ。職場復帰後は電子デバイス事業部の人事総務部門を担当。2023年1月より現職。全国障害者雇用事業所協会長野支部 支部長を兼任。



エプソンミズベ株式会社

1983年にセイコーエプソン(株)の特例子会社として設立。長野県諏訪・松塩エリアの6事業所にある工場で業務を展開している。



管理部 課長 早川 崇志さん

2000年にセイコーエプソン(株)に入社。ITシステムの企画推進に従事。2023年よりエプソンミズベにて、グループのインクルーシブな障がい者活躍実現に向けた戦略・人事を担当。



管理部 部長 河西 秀和さん

1990年にセイコーエプソン(株)に入社。電子デバイスの企画、品質管理に従事。2022年よりエプソンミズベにて、障がい者が成長できる会社に向けて人事・管理を担当。

長く楽しく働ける職場であるために、能力に応じて挑戦できる環境を整えたい

「信頼できる仲間と安心して楽しく働ける、成長できる環境づくりが何より重要」と語る上條さん。長期勤続者も多く、28年以上勤務する知的障がい者や11年以上勤務する精神障がい者が活躍しています。オフィス業務、製造、リサイクル、ビルメンテナンスの4事業を展開し、障がい者の特性に応じて適材適所で配置しています。また、従業員の定着支援のため、精神保健福祉士によるソーシャルスキルトレーニングやカウンセリングを定期的に実施し、職場環境の向上に努めています。他にも、タレントマネジメントシステムを設け、就業を支えるスタッフが関わってもメンバーの特性等をしつかりと引き継げる体制を整えています。

2023年からはパソコン教育の導入を進め、オフィス系業務への挑戦も支援しています。河西さんは「定期的に組織風土調査を行い、理念で掲げる『楽しく働く』ができていないかを調査しています。そういった中で、違う仕事をしてみたいという声もあります。そうした声には具体的なヒアリングを経て新たな業務にも挑戦できる仕組み作りにも取り組んでいるところです。昨年10月に1名実際にジョブチェンジをされた

方がいます」と説明します。

一人一人の光る部分にフォーカスを当て、さらなる活躍の場を作り出したい

エプソンミズベは、2030年までに障がい者雇用を230名に拡大することを目標としています。そのためには、障がい者自身がリーダーとなり、職場をマネジメントできる仕組みの構築が必要不可欠です。早川さんは「障がい者が主体的に業務を運営できる体制を整えることで、持続可能な雇用環境を実現したい」と展望を語ります。

さらに、上條さんは「エプソン本体との接点を増やし、将来的には障がい者が本体の職場で活躍できる環境を作ることが理想」と述べます。「従業員と接すると、一人一人にキラリと光るものを感じます。偏見なく、彼らが持っているものにしつかりとフォーカスを当てれば、彼らの社会的な活躍の場はあるはずだと強く感じます。そういう考えを持つ方が増えれば、障がい者の可能性も広がります。エプソンミズベでも、社会全体でも、チャンスは平等に与え、成長できる環境が加速すれば、より多くの方が笑顔で生きられる社会になるのではないかと考えています」。

地域社会にも影響のある企業として、雇用創出やインクルーシブな職場づくりを進め、全国の特例子会社のモデルとなることを目指します。

多様な業務にやりがいを持って取り組む従業員たち



矢島 魁斗さん

部門:諏訪事業部富士見工場(2019年入社)/担当業務:ビルクリーニング/障がい種別:知的

「現在は富士見工場ビルクリーニング(BCL)と製品仕分けの仕事を担当しています。1日は朝礼から始まり、2人1組で清掃作業を進めた後、昼食を取り、午後も引き続き作業を行います。業務終了後は夕礼と業務日誌の記入を行い、一日の振り返りをします。



清掃業務では「汚れを落とすこと」にやりがいを感じ、仕事の成果が目に見える点に達成感を覚えます。また、現在の業務である製品仕分けの実習に挑戦中です。将来的にはさらに多様な業務に挑戦し、自身の可能性を広げていきたいと考えています。「何事も挑戦」の姿勢を大切にしたいです」。



藤森 陽子さん

部門:諏訪事業部諏訪工場(2023年入社)/担当業務:オフィスサポート/障がい種別:精神

正確でいい品質を心掛けて

「資料の電子化、データ入力、新聞クリップング業務を担当しています。月末には広丘事業所で調達関連業務にも携わり、新しい業務の手順書作成にも積極的に取り組んでいます。1日の流れは、新聞クリップング業務から始まり、その後電子化作業やデータ入力を行い、最後に業務の振り返りを日報に記入します。作業をスムーズに進めるため、タスクを優先順位ごとに書き出し、チェックしながら進める工夫をしています。やりがいは、納品した業務が評価さ



れ、次の依頼につながることで、資料を丁寧に扱うのを始め、正確でいい品質であることを一番に考えています。これからもエプソンミズベに仕事を依頼して良かったと思っただけでいいよう丁寧な仕事を心掛けたいです。また、今後は以前取り組んだ動画編集に再度挑戦してみたいです」。



柳沢 隆弘さん

部門:諏訪事業部湖畔工場(2014年入社)/担当業務:治具洗浄/障がい種別:知的

仲間と協力し仕事の成果を実感

「現在は治具洗浄業務を担当しています。繁忙期にはインクカートリッジの仕分け作業にも携わり、リーダーが作成するスケジュールに基づいて業務を進めて

います。1日の仕事は、クリーンルームでのエタノール洗浄を中心に、1日800件程度の作業を行います。目安の作業量が時間ごとに決められているため、それに沿って作業することで滞ることなく仕事を進めていくことができます。やりがいは、仲間と協力して作業を進め、成果を実感できることです。また、仕事で困ったことがあれば気軽に上司に相談できますし、アイデアがあれば積極的に聞いてくださる環境があることがとても安心します。今後は、他の工場での業務も経験してみたいです。さまざまな仕事に携わることで自身のスキルをさらに向上させたいです」。



5名様 PRESENT

エプソンミズベ タオルハンカチ・メモ帳 ノートセット

詳しくは裏表紙



人気ブロガー・桜井奈々さんが語る 上手いできないときも、 笑い飛ばせば人生はもっと楽しくなる

ブロガーとして活動し、Amebaブログ ママ部門で億越えのPVを誇る桜井奈々さん。
自閉スペクトラム症(ASD)と知的障がいのある娘さんのことを始めとする日常を綴るブログで大変なことも
“笑い飛ばす”スタイルが多くの支持を生んでいます。

自閉症の女の子の情報が ないと始めたブログ

桜井さんは現在のブログを2012年からずっと継続されています。当時、娘さんが自閉症と診断され、情報不足に苦しんだ経験から、自らの体験を発信しようとしたのがきっかけでした。「その頃はSNSも普及しておらず、特に自閉症で知的障がいのある女の子を育てる情報が全然見つからなかったんです。誰かが私と同じように悩んだときに、少しでも参考になるものを残したいと思いました」。

当初、ブログを書き始めた桜井さんは、発信することで自分自身の気持ちの整理にも役立つと言います。「ブログを通じて誰かに届くだけでなく、自分自身も前向きになれたんです。時にはコメント欄で励ましをいただくこともあって、それが私の大きな支えになっています」。桜井さんは単に育児の困難さを記録するだけではなく、ただの主婦の日常の中のささやかな幸せや笑い話を交えながら、ポジティブな視点で綴ることを心掛けています。その工夫は、読者にとって「親しみやすく役立つ情報源」として多くの支持を集めています。「障がい児を育てている方以外の方にも知ってもらいたくて、日常8割、娘のこと2割くらいで更新しています。おかげさまで



ブログを楽しんでくださる方がいるので、それがブログを続ける原動力です」。
**偏食など娘の特性を理解し、
重ねてきた挑戦と工夫**

桜井さんの娘さんは、偏食や感覚過敏といった特性を持っています。「娘はミニトマトと白米しか食べられない時期が長く、旅行や外食が大変でした。親としては栄養を考えたいところですが、決まったお店のハンバーグしか食べられない、私自身がその匂いにトラウマになったこともありました」。一方で、娘さんの時間には楽しい瞬間も多くあると語ります。「小さなことですが、一緒に好きなテレビを見て笑ったり、手をつないで散歩したりする時間が私の癒しになっています。娘が私に教えてくれる世界の見方は、とても特別で豊かなんです」。
桜井さんは娘さんの特性を理解し、それを受け入れることの大切さを強調し



あまり風邪を引いたりせず健康で、そこも恵まれた部分だなと思います」。

しかし、将来についての不安もあります。「親亡き後、娘がどうやって生活していくのか、支援制度やグループホームの選択肢を色々調べています。まだまだ何が最適なのかは分からないです。まだ、娘が小さい時は「育てなきゃいけない」という思いが大きかったです。今は娘のことは「戦友」と思っています。よく夫からも私は娘に対して厳しいと言われるのですが、これから社会の中で生きていく一員として「自分で生き抜いていく」ようになってほしいんです。私が生きていくうちはお金も残せるようにと思っっていますが、娘自身でも生き残れるように、弱音は受け付けませんよという姿勢でいます」と話します。



人生は予測不能。 困難を笑い飛ばす力が大切

「人生には予測不能なことがたくさんあります。笑って飛ばす力を持つことが本当に大切だと思っています」と、桜井さん。「例えば、娘が働くようになってから一度も給料に関心を持たないので、『ATMでお金を下ろしてみたら?』と試しに聞いたら、『下ろし方くらい知っているよ。機械の横に付いている電話で呼び出せばいいんでしょ?』と言って、私はその発想に思わず笑ってしまいました」。

娘の独特な視点に教えられることも多いです」と、些細な日常も笑いに変えている

桜井 奈々さん
中学生の時に、老舗児童劇団に入団。23歳の時に第一子出産。長女が3歳の時に自閉症スペクトラムと診断される。ブログを開設し、2017年よりアクセスが急増。同年に第二子を出産。浅井企画所属。
<https://ameblo.jp/n1024y0213/>



現在18歳の娘さんは、障がい者雇用の枠組みで企業で働いています。桜井さんは日々のサポートを続けながら、娘さんが社会の中で自立していく姿を見守っています。「就労先では、服装規定や食堂の利用ルールなど、細かい課題が山積みです。例えば、先日とても大きいリボンのパレタを買って、職場に付けていくこととしていたのですが、そういったカジジュアルな格好は働く場にそぐわないということが中々理解できないなど。それでも、朝きちゃんと起きて仕事に向かう娘を見て、本当に成長したなと感慨深いです。私と似たのか

